

# 令和7年度東京都多摩小平保健所難病講演会

(令和8年1月15日オンライン開催)

資料7-2

- ・東日本大震災以降、在宅人工呼吸器使用者の災害対策は主に電源確保を中心に進められてきた
- ・近年は、内水氾濫や落雷などの局所的災害に加え、コロナ禍で明らかになった介護者不在など、日常の様々な事象が生命に直結するリスクとなっている
- ・このため支援者には、対象者一人ひとりの状況や個別性を踏まえ、自助・共助の力を高めるためのチームとしての働きかけが求められている

【テーマ】 **在宅人工呼吸器使用難病者の「その人らしさ」を踏まえた災害対策準備**

【演者】 ・災害対策の経験がある地域支援者（ケアマネジャー、訪問看護師、ホームヘルパー）  
・難病看護専門家（東京都医学総合研究所 松田千春氏）

【対象】 在宅人工呼吸器使用難病者の地域支援者

【受講者】 56名（内訳；ケアマネジャー 22、訪問看護師等 15、  
ホームヘルパー 5、市職員 6、その他 8）



<受講者の声等（事後アンケートまとめ）>

- ・ **平時の取組の反復こそ最大の備え**  
：具体的な取組と評価・情報共有が“機能する支援”を作る
- ・ **災害時個別支援計画はチーム思考の有効なツール**  
：定期的な取組確認 → 計画見直し → 実践の循環が不可欠
- ・ **災害用備品は“置く・使う・維持する”がセット**  
：運用ルールの確認・配置・点検を明確化



“その人らしい”災害対策を考える = 療養生活の質の向上につながる